

ACNS ミャンマー・ヤンゴン紀行

医療法人社団 涼風会 佐藤脳神経外科
佐藤 透

〈プロローグ〉

突然のメール連絡は、20180201-藤田保健衛生大学(藤田医科大学)坂文種報徳會病院脳神経外科秘書さまから、“本年9月22-23日にミャンマー(ヤンゴン)にて開催のコースではご指導賜ることとなり厚く御礼申し上げます。現地の会長にお送りするためのリストを作成しており、先生のご発表予定の2演題名をご教示頂けますと幸いに存じます。” そういやああ、20171029-13th-ICCVS(第13回国際脳卒中外科学会、名古屋)でCFDのシンポジウムを依頼され、企画・敢行したご縁で、暮れに加藤庸子先生から、来年9月にミャンマー・ヤンゴンであるWFNS(世界脳神経外科連盟)-ACNS(アジア脳神経外科会議)での教育講演に行きませんか、お誘いがあったような気がする。折しも私の一大イベントのまっただ中、今はそれどころじゃないべ、ほおっておこう。



図1 ACNS-ミャンマー・セミナー

〈ACNS教育講演受諾〉

すっかりくっきり忘れていたところ、20180409-

ミャンマー脳神経外科学会会長 Myat Thu(ミヤツ)先生より、“我が国の若き脳神経外科医が為にご講演をお願い致します。”との招聘状が届いた。さらに20180416-加藤庸子先生より催促メールも戴いた。やっと一段落したところだし、どうだろうか？開催日程が20180922-23の土日で翌24日は振替休日となる。なにしろおひとり院長の立場だから、金・土の代診手配ができるなら参会可能かな？脳神経外科・悠くん、整形外科・舟くん、息子らふたりに代診頼んでおこう。そいじゃあお初ですが、ご参加しちやいましょうって快諾ご返信。

講演2題かあ、準備せなかな。#1: Technical aspects of multi-fusion imaging: NVC of trigeminal neuralgia and hemifacial spasm。これは今までの発表のエッセンス、掻き集めたらなんとかなるじゃろな。#2: CFD analysis for cerebral aneurysms: Wall shear stress (WSS) of the aneurysmal dome in contact with perianeurysmal environment。こちらは未開拓な新作だ。5か月先の講演に間に合うように、その後の20181010-77th日本脳神経外科学会総会にも使えるから、これからせっせとデータ収集・解析せなけんよね。あわよくば、発表までに論文しておければ最高なんだけど、できるかな？

〈30年ぶりの海外渡航〉

20180707-現地からのメール。1. Personal CV including Photo、2. Email and contact number、3. Flight Information、4. Copy of Passport first page、5. Abstract of your talk。6. Dietary restriction、準備のため次週までに返信されたし。うにゃあ〜パスポート取らんとけん。1986-1988、University of California at San Francisco (UCSF)に留学して以来、30年間海外脱出お出かけなし。20180720-申請

済ませて、10年物の新規パスポート、遂にゲット～ICチップが入ってるぜ。

航空券も予約入れとかんとけん。ネットのHISSで、広島空港発-北京乗換-ヤンゴン着の中国国際航空便、これがいいかも。中国北京かぁ～ト不安。やっぱご案内戴いた名鉄観光・延原素行さまに全面的にご依頼としよう。往路は、20180921-タイ航空(TG)-649-Fukuoka-11:35→Bangkok-14:55、20180921-TG305-Bangkok-17:50→Yangon-18:45着。復路は20180923-TG306-Yangon-19:45→Bangkok-21:40、20180924-TG648-Bangkok-00:50→Fukuoka-08:00着。エコミー・クラスで102,110円、余裕のビジネス・クラスなら175,000円(総額194,210円)～長旅だからこちらで行こう。ところで航空運賃は支給されるの?～後日のお問い合わせに、“自身持ちです”って連れない返事。自腹? そうなんだあ! くっそお早まったかあ。それからVISAが必要なんだって? VISAカードならゴロゴロあるけど。いやいやミャンマー入国にはVISA=査証が要るんだよね。初対面には名刺交換がいい、英語版を創っておこう。オラのタイトルはもちろんM.D., Ph.D. だ。

〈準備は万端?〉

20180811-15の盆休は。虎の子の自由時間。PowerPointでスライド創りに明け暮れた。#1のTN・HFSのNVCは過去発表をコピペ貼付再構成で凌ぐ。#2のWSS-CFDはト難問だ。CFD解析に使用したarterial spin-labeling (ASL) MRAはお初のデビュー。それがゆえ参照文献が見当たらない。そんならオラがおひとつ書下ろしてみゃんしょ。ってんで、20180810-Visualization of aneurysmal neck and dome after coiling with 3D multifusion imaging of arterial spin-labeling MRA and fast spin-echo MR cisternography (Original Research、

AJNR-18-00853)を投稿。これを踏み台に引用して次に進もう。

脳動脈瘤のCFD解析は今が旬、いろいろと可憐な花が咲き誇る。しかし、瘤壁が周囲構造物に接触するPerianeurysmal environment (PAE) 部位でのWSSについては未だ誰の報告もない。PAEと接触することで、瘤内血流動態が変化するかどうかは、未検討な領域だ。この辺りを瞬時に理解するには、百聞は一見に如かず、WSSのダイナミックな変化をアニメーション・ビデオで可視化表示して、みなさまにご覧していただくが良いでな。ここんところはPowerPointで動画閲覧としておこう。紆余屈折、なんとか益明けに出来上がった。勢い今のうち、仇花でもいい、発表前に論文してみよう。20180902-Influence of perianeurysmal environment on the wall shear stress of the aneurysmal dome in contact with brain parenchyma (Original Research、AJNR-18-00926)を投稿。当選か直しか落選か? 果報は寝て待て～唯我独尊～どうなることやら。

最後に難関な砦は英語力。PowerPointには発表者ツールがあるから、カンペをそのまま読むだけで構わない。じゃが、発音・イントネーションはそれなりにnativeしとかんとけんバイ。それには、カンペ内容をMS-wordにコピペして、Wordの校閲から読上げを選択し、Sheraさまのコンピュータ音声に頼る。MRIはミスターとなるのでMスペースRとするとエムアールと読んでくれる。これを録音して再生速度をトゆっくら遅く、そして普通で読み合わせる。病院チャリ通の行き帰りに、はたまたレセプト点検のBGMとして聞き流す。これって石川遼くんのスピード・レーシング相当だ。じゃが時間がねえ、超スピード、超々スピード・レーシングでなくっちゃね。20180910-Welcome dinnerのご案内あり。届いたメール一覧に小野成紀先生と亀田雅博先生



図2 同胞の輩；左から、亀田雅博先生、小生、加藤庸子先生、小野成紀先生

のアドレスめっけ。なんでも岡山大学のミャンマー医療人育成プログラムで、何度かヤンゴン訪問歴あり、急遽追加講演を頼まれたそうだ。彼らとご一緒できるとなると、勇氣100倍ひと安心だね。

〈いざタイへ、そしてヤンゴンへ〉

20181021(金)-朝いち、さくら541号-福山-07:32発→博多-09:02着、市営地下鉄-博多-09:12発→福岡空港-09:17着。国際線はどこだ？リムジン乗ってターミナルに辿り着く。タイ航空カウンターでチェックイン。窓側席でOK～お隣りは空席～誰も居ない。出発ゲートをくぐって免税店ロビーをうろうろ。ミャンマー通貨(Kyat=チャット)に換金しておこう。できませんって。ドルは通用するから、100ドル札をゲット。ロイヤルシート搭乗口から一番にご入場だ。お久の外国航空機、余裕のシートにリクライニング。シャンパンをごちになると、お隣りさんがやって来た。あれえ空っぽのはっずだったのに。ベテランの知恵=アップ・グレードの輩は、バッテリー製造会社からの出張。タイで事業を任されて3年、現地での運営や後進の育成の苦勞、あれやこやと話し込む。

お後は、じつから映画鑑賞。“嘘を愛する女”～しまなみ海道～大島は吉海漁協～今治造船辺りでロケしとる～ここ知つとるじゃん。“8年越しの花嫁”～抗NMDA受容体脳炎。

世にも稀なる岡山でのエクソシスト物語りは、ノンフィクションの実話。あっこれって岡山大学病院玄関ロータリーじゃん～よく知つとるよね。日本映画を2本鑑賞して、あつという間にバンコック到着～36℃蒸し暑いべ。乗換えはあちら1km先、動く歩道もあつたけど長い道程。靴を脱いで保安検査場の金属探知機くぐって。さあお次は？つてると呼び止められた。なんだあおら何にもしとらんよ。籠の中にサイフお忘れでした、やれやれ。ロイヤル・ラウンジでひと休み、出発ゲートはA5。2階フロアをてくてくコロコロ1.5km、“a long and winding road”だ。ひいころドッコイヤつとこさ間に合った。つて思つたら搭乗機は1時間遅れでした。

暗闇のヤンゴン空港には20:00前ご到着。ロビーでそれっぽい日本人めっけ。長崎の出雲剛 Dr、東京の池田尚人 Dr、旭川の鎌田恭輔 Drら面々とごいっしょだ。レジデント3人お出迎えあり、迷子にならずでよかったバイ。クラクションの喧噪の中、無断で道路を横切る。2台に分乗して交通戦争よろしき混雑をやり過ごして、一路会場のNOVOTELホテルへ向かう。既にWelcome-dinnerの夕餉は終盤。ご参会面々のご挨拶に拍手する忙しさの中、急ぎフランス料理を平らげる。お後は5つ星のお部屋にチェックイン。まあまあだだっぴろいこと。冷蔵庫にはなんとKirin-Ichiban“一番搾り”があるけど、やっぱミャンマー・ビールだよね。一杯入って、翌日の予行をする、な～んてことなし、すぐにお眠に入る。

〈ACNS-初日〉

モーニング喰って8:00前に会場に向かう。フロアで何処ぞのお偉いさんと出会う度、加藤庸子先生が、こちら“Dr. SATOH, He is an specialist and expert in CFD”つてご紹介に預かる。なんだかムズムズむず痒いありがたさ



図3 開場前の記念撮影



図4 ASNS 会場風景

也。はい、それじゃあみなさん記念撮影しましょう。オープニングは、主催者 Myat Thu Dr、加藤庸子 ACNS 会長のご挨拶から始まる。各国演者の講演が淡々と続く。お隣りの鎌田恭輔 Dr とあれやこれと意気投合。こんなでっかい聴神経腫瘍なんて、日本じゃありゃあせんよね。脊髄腫瘍だっどこで飼ってたんじゃろな。ほそぼそムダ口をたたく。それじゃあ壇上でのお写真撮っておきましょう、お互い iPhone で撮りっこして遊ぼうね。

いよいよオラの順番～本番だあ。三叉神経痛と顔面痙攣の fusion 画像。オラの涼風会病院建屋の表紙スライドから始まる。発表者ツールを読むこともなく、スライドにレーザー・ポインター当てて、いかにもって感じで、ゆっくら、こっくらと喋る。あれあれ何だかんだと、とちらず

上手く英語してるよなあ。涼風祭りの病院紹介スライドで、Thank you for your kind attention～これでお仕舞いだ。“カラフルで綺麗な画像でした”。“ASL の coil 治療後椎骨動脈瘤の NVC 圧迫症例、あれ分かったよ”。フロアに降りての好意的コメントに、達成感120%。う～んよかったバイ～自画自賛。

18:00から Presidential Dinner Party。こういうのも異国参会のお楽しみだね。Myat Thu Dr の長～いご挨拶のあとで、酒に魚に歌に踊りにと大賑わいだ。各自壇上が上がって、参加証明書とお土産を戴く。フィナーレはミャンマーの盆踊りだ。みなさん壇上で音楽に合わせてリズム良く踊る。お呼びがかかって、オラもその輪に加わる。少々くたびれるほどの長丁場にやっと終止符。誰彼となく握手を交わして、やっとこお開きになる。



図5 異国での歓待、宴もたけなわ、フィナーレの踊り

そいじゃあ2次会飲みに行きましょう。加藤庸子 Dr の音頭でみなさんぞろぞろついてく。スポーツ・バーで、イングランド・サッカー中継を観戦しながら、ミャンマー・ビールをあおる。アルコールのお陰か、つたない英語力もなんのその。お隣りの上海は Weiguo Zhao (ジョー) Dr と、日本語交えて話し込む。三叉神経痛・顔面痙攣の MVD 症例は、年間500-600例あるネ。中国全土から集まって来るから沢山ネ。すべて interposition、

再発はまず無いアルネ。自信の程は並々ならぬもの、じゃがネほんまあかいなあ！、同じく上海の Bin Xu Dr、STA-MCA 血管吻合術は毎週18-20例やってるんだって、さもありなん。1例1例を大切に扱うは、我が日本＝日の丸脳神経外科。良いか悪いか別として、いやはや大違いやでな、OkeyDokey。

< ACNS- 2 日目 >

きょうびも8:00からスタート。午前はちんたら関心の少ない領域ばかり。そいじゃあ～オイラの病院スタッフにお土産お買い物ゲットせなかな。9:30から抜け出して、猛暑の中汗アせあせだく、教えて戴いた近くのショッピング・モールご訪問。単なる普通のスーパーマーケットめつけ。ネクタイしてカートを押してる買い物主夫だな。大人数をこなすにはクッキー缶がいいね、6缶まとめて積んでレジへ。持ち合わせの100ドル換金じゃチ不足りない、ひと缶引いて帳尻合わす。よっころしよっころ抱えてお持ち帰り。ホテル・ロビーで宅急便をお願いする。今日は日曜日なので送料が分からんから受取れません。運賃の方が高く付くのでお持ちになった方がいいでしょう。ええっそれはないでしょこの荷物。明日でいいから、送料着払いで送ってくれよん。..... 後日談、1週間後国際郵便で病院にお届けあり。ダンボール箱にぎっくり入れてあるだけ、包装なんてムダな物なし。案の定、クッキー缶はでこひちゃひちゃげてる。中身が大丈夫だったから、まあよしとしゃんしょ。

昼食までのセッションは、ずらり濃厚な演題が目白押し。インドから Abhidha Shah Dr の時間オーバ、長～いだらだらご発表には閉口。時間が押して押して、オイラの発表、13:00終了の予定が始まらない。13:30からは、トズラこいて市内観光にお出掛けすることになっておる。すみません、予定があるので、発表ひとつ繰



図6 お別れの席の記念撮影、市内観光ヘトズラ

上げてもらえませんか？ほならそう致しゃんしょ。周囲構造物との接触による脳動脈瘤のWSS変化の発表は、13:00きっかり終了、これでよっしゃ。“これって結局どういうことなんですか？”、ちょっくら難解だったかも。っと同時にランチ・ブレイクのアナウンスあり、みなさん一斉にレストラン会場に移動。急ぎランチを済ませて、さあ出かけるぞお、ってところで。“あらあら先生、もうお帰りでしたら、記念撮影しましょうよ。”、加藤庸子先生の一声で、ドドツつとみなさんお集まりんなる。中央の椅子ド真ん中に並んで掛けて、ハイチャぱしゃりバジャぱしゃ。

< ヤンゴン市内観光のオマケ >

それ行け CARP じゃなかった、それ急げエロビーまで。化粧室でネクタイ・ジャケット脱いで、ポロシャツ・ツツカケのラフ・スタイルに変身。現地日本語通訳業のガイド＝Zayar Soe Win さん、お抱え運転手付きのカーラ中古車で、13:30お出迎え。これから鎌田恭輔先生とごいっしょにヤンゴン市内観光だ。手始めは、チャウ・ハット・ギー・カバ・アイ・ボタング(チャウタツジ)・パゴダ。17.7m×65.8mの優しいお顔の巨大な寝釈迦仏さまお成り。その周りで家族連れやカップルさんをご自由に飲食・お昼寝されてる癒しのスポット。野良猫さんも仏さまもみなさん横になっての寝姿だっち。

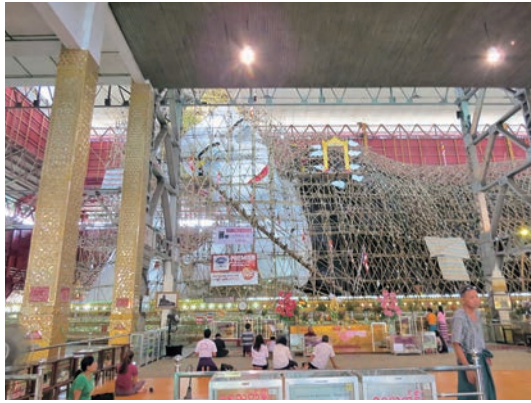


図7 チャウタツジ・パゴダの巨大な寝釈迦仏さま



図9 黄金に輝く仏塔、シュエゴン・パゴダ



図8 ボージョー・アウンサン・マーケット；伝統的民族衣装＝ロンジー（男性用＝パソー、女性用＝タイムン）



図10 八曜日占い、月曜日生まれの守護動物は虎、仏陀に水掛して運気を戴く

お次は、ボージョー・アウンサン・マーケット。ここは浅草、はたまた築地かって言う古き佳きヤングの雰囲気。ちまちま雑貨なお店がごっつく集まる。お土産にはミャンマー産コーヒーと伝統的民族衣装。カラフルな下半身＝ロンジーは、男性用＝パソー、女性用＝タイムン。其々ひとつずつご購入～果たしてきちんと着用できるかな？歩道橋を渡って向かいの Junction City へ入る。外国ブランド、映画館、カフェなどなど、日本と何ら変わらぬ、福山なんかよりもっと最先端なショッピングモールだ。ミャンマー産のお菓子めつけて、これをゲット。YKKO で鶏肉満載のニューメンっぽいミャンマー・ヌードルを食べる。これってホマ美味しい、日本進出しても大繁盛太鼓判でしたワイ。

それでは最終目的地、黄金に輝く仏塔シュエゴン・パゴダへ参ろうぜ。裸足だから、靴を預

けて、短パン禁だからロンジー・パソーを借りる。パゴダ＝仏塔は、シュエ＝黄金の板8688枚が貼り付けられ、ダイヤモンド5451個、ルビー1383個の宝石、その頂上100mの風見鶏には76カラットのダイヤモンドがあるそうな。見れるかな？～超拡大ズームで激写トライアル～うーん残念写らない。ご当地では、生まれた曜日から願掛けするのが通常だ。月曜日-水曜日(午前・午後)-日曜日の八曜日占いだ。オイラは19550926の月曜日生まれだから、守護動物は虎。年齢+1回=63回、仏陀に水掛して運気を戴く。

そろそろお時間、それ行け空港までぶっ飛ばそうぜ。突然のスコールに冠水した道路、水しぶきを上げて突っ走る。空港到着18:00、出発便19:45までにはたっぷりプリプリアお時間あるぞ。ヤング空港のミンガラ・スカイ・ラウンジでシャワーを

浴びて着替える。軽食にお酒、日本酒は？焼酎は？～ありません、ほなら赤ワインでよかっぺ。10分遅れの飛行機で無事ミャンマーを出国。タイ空港では、ロイヤル・ラウンジでお茶して、あれこれふたりで話し込む、オイラはほとんど聞き役だ。鎌田恭輔先生とはここでお別れ、再会を期して見送る。タイ空港のこれまた広い通路を、ころころ引いて移動する。50分遅れの1:40、やっとリムジンでエアバスに辿り着く。これで安心、ひと眠りすると我が日本国、福岡の朝だ。

〈エピローグ〉

海外で教育講演するという、はじめての体験。疑心暗鬼、思案投げ首だったけど、小さな冒険心を持続して、案ずるよりも生むが易しくんだった。それがために、あれこれ遣り繰りして、切羽詰まった濃密な自分時間を創造できたこと、これが最高の収穫であった。曖昧ながらも、裕福な達成感にほろ酔い加減なひと時、これがオイラのご褒美だ～人生、日々是好日なり。

(63歳の誕生日に)